



国・自治体との連携した取り組みの必要性を訴える木野輪之内町長

輪之内町による要望協議

『広域防災ネットワーク構築に向けた連携必要！』



輪之内町・木野町長



木曽川上流河川事務所・大澤所長

- 7月7日（月）の「川の日」、輪之内町は国土交通省木曽川上流河川事務所に対し、国・地方自治体と連携し防災力の強化を目指した取り組みについて要望協議を行いました。同町役場（安八郡輪之内町四郷）で開催された会議には、木野輪之内町長ら幹部が出席し、揖斐川沿川で計画している防災拠点や名神高速道路から揖斐川堤防天端道路に直接繋がるアクセス道など、3項目の早期実現を求める要望書を大澤事務所に提出しました。

- 要望に先立ち、挨拶に立った木野輪之内町長は「今年3月までに福東排水機場のポンプ増設工事が完了し、また、揖斐川堤防補強工事を飛躍的に進めていただいたことに感謝。それらの社会資本をさらに充実させるとともに、広域連携によって有効活用し、一層の発展を目指さなければならない」と治水事業の必要性を強調。

また、「昨年、9月4日に発生した記録的な豪雨では、輪之内町においても1時間に100ミリを超えるゲリラ豪雨が発生し恐ろしい経験をした。我々は低平地に住む宿命を抱え、日々、不安な生活を送っている。町民の命を守るための防災対策は必至であり、大きな視点と責任を持って取り組んでいく必要がある！」と訴えて、要望事項の実現に特段の配慮を求めました。

- これらの要望に対し、大澤事務所長は「洪水、地震等により大規模な災害が発生した場合、迅速な復旧活動や支援活動を行うための拠点整備や広域防災ネットワーク化の構築は必要。今後も関係機関と連携・調整しながら取り組んで参りたい」と認識を示しました。

- その他、参加者らは、輪之内町が本年4月から運用開始した河川監視カメラによるライブ映像を確認し、要望箇所の視察と意見交換を行いました。



市町村の水防活動の拠点

防災拠点の施設イメージ図

災害時